

事業概要

1. 事業の目的、公園概要

■ 事業の目的

「21世紀の森公園周辺エリア活用推進事業」は、公募設置管理制度（Park-PFI）を活用して、21世紀の森公園に新しいサービスを提供するとともに園内施設整備を実施することで、名護湾沿岸基本計画で掲げられた「誰もが“健幸”になれる海と陸のスポーツ&レクリエーション拠点」を実現し、**地元住民の日常的な公園利用と、観光客の誘致を図ることで、当該エリアを核とした地域活性化**を目的としています。

名称	21世紀の森公園 (名護浦公園)
所在地	名護市宮里二丁目1番
面積	26.0ha うち事業区域 約2.2ha
公園種別	総合公園



■ 施設概要

※公園の駐車場台数は、参考資料9参照

No.	名称	備考	No.	名称	備考
①	あけみお SKYドーム	・H24供用開始 ・年間4.9万人利用 (R4実績：3.5万人)	⑬	モデル花壇	・防衛省補助により整備
②	国際交流会館	・H12年築 ・年間約1千人利用 (R4実績：6千人)	⑭	野外ステージ	・年間1.7万人利用 (R4実績：9千人) ※申請ありの利用者
③	屋外投球練習場・前広場	・R2度供用開始 ・イベント時使用想定	⑮	多目的プレーゾーン	・スケートボード利用 ・3on3バスケット利用
④	市営球場	・R1年築 ・1～2月：プロ野球キャンプ ・3月：大学野球合宿	⑯	少年野球場	・年間1万人利用 (R4実績：1万人)
⑤	第二球場	・S53年供用開始 ・年間4千人利用 (R4実績：6千人)	⑰	ゲートボール場	・H1年供用開始 ・年間1千人利用 (R4実績：1千人)
⑥	サッカー・ラグビー場	・年間1万人利用想定 (R4実績：4千人) ・2面整備中 ・R3年：1面完成予定	⑱	テニスコート	・S59年供用開始 ・年間3.6万人利用 (R4実績：3.8万人)
⑦	イベントドーム	・H11年供用開始	⑲	労働福祉センター	・H6年建築 ・年間3万人利用 (R4実績：9千人※利用制限あり)
⑧	ビーチハウス	・温水機能なし	⑳	相撲場	(R4実績：260人)
⑨	BBQ広場	・年間9千人利用 (R4実績：1千人)	㉑	21世紀の森屋内運動場	・H3年供用開始 ・年間4.7万人利用 (R4実績：3.1万人)
⑩	浮島		㉒	21世紀の森体育館	・H2年築 ・年間10万人利用 (R4実績：11万人)
⑪	人工ビーチ遊泳エリア	・利用可能期間4月～9月 ・クラゲネットあり	㉓	大型遊具	・R8年供用開始予定
⑫	池・松林	・公園内散水に利用 ・管理に補助金活用 ※松くい虫防除事業			

2. 過年度からの検討経緯

■ 検討経緯

年度	実施内容（■計画策定、●実証実験、△事業者ヒアリング）
R2年度	■名護湾沿岸基本計画(R3.3)の策定 ⇒有識者懇談会の下に3つの作業部会を設置して検討（① 21世紀の森公園周辺エリア利活用作業部会 、②名護漁港周辺エリア利活用検討作業部会、③名護湾沿岸公共施設更新等検討作業部会）
R3年度	●トライアルサウンディング（その1）
R4年度	●トライアルサウンディング（その2） △マーケットサウンディング ■21世紀の森整備計画改訂(R5.3)の策定
R5年度	△事業者ヒアリング(6月)

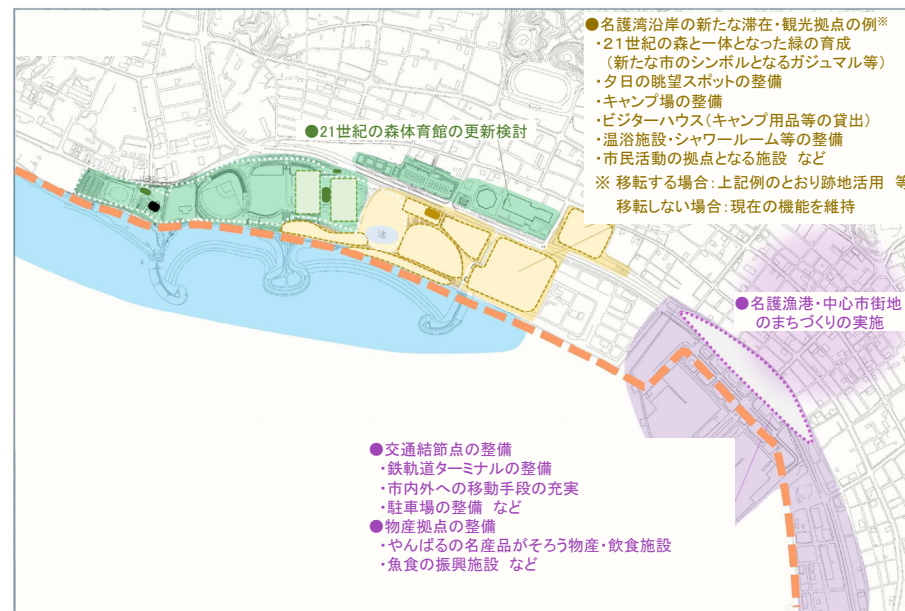
■ 名護湾沿岸基本計画(R3.3)の策定



<ゾーニング>

《R4年度利用者数実績》
※スポーツゾーン：約24万人
※レクリエーションゾーン：約2万人

・名護湾沿岸基本計画における「21世紀の森公園周辺エリア」の長期将来像は、市役所庁舎・市民会館の跡地利用の検討をもとに21世紀の森公園と連携した本市の新たな顔となるレクリエーションゾーンとして位置付けられている。
・交通ネットワークも大きく変化(P.6参照)し、将来的に通過交通の増加が懸念されるため、今回のP-PFI事業において、長期将来像を意識した整備をする必要がある。



<21世紀の森エリアの整備計画(長期)>

(3) 長期（11年以降）

長期では、市役所庁舎・市民会館が移転した場合には、その跡地等を活用し、レクリエーション機能を整備し、レクリエーションゾーンの魅力づくりを進めます。名護漁港周辺エリアについては、これまでの検討結果を踏まえ、引き続き、名護漁港・中心市街地のまちづくり及び交通結節機能の充実・物産拠点の整備を進めます。

1) 21世紀の森公園周辺エリア

■ 名護湾沿岸の新たな滞在・観光拠点

市役所庁舎・市民会館の建物又は跡地活用の検討をもとに、21世紀の森公園と連携した本市の新たな顔となるレクリエーション機能の整備を進めます。

■ 21世紀の森体育館の更新検討

更新時期の近づく21世紀の森体育館について、更新の検討に着手します。

出典：名護湾沿岸基本計画(R3.3)

2. 過年度からの検討経緯(R3~4年度の検討結果)

(4) 21世紀の森公園の目指すべき姿

名護湾沿岸基本計画、トライアル・サウンディングのテーマと各種調査の実施結果を踏まえ、官民連携事業における公園の目指すべき姿を整理した。

表 6.2 21世紀の森公園の目指すべき姿

名護湾の活用	・美しい名護湾沿岸の風景を楽しめる施設、機能の導入 ・マリナクティビティ等の名護湾沿岸の魅力を体験できる施設、機能の導入
スポーツ・健康づくり	・スポーツ観戦、体験イベント等の誰もがスポーツに触れ、健康づくりに取り組むことができる施設、機能の導入
憩いの場の創出	・名護湾沿岸の自然の中で、くつろぐことができる施設、機能の導入
新たな賑わいの創出	・市民の生活に溶け込み、日常的に訪れたい施設、機能の導入 ・名護ならではの魅力を活かし、来訪者が立ち寄りたくなる施設、機能の導入

出典：R4年度21世紀の森エリア活用検討業務報告書

【R3年度】

21世紀の森公園の目指すべき姿を検討し、トライアルサウンディング及び事業手法の検討を実施

【R4年度】

トライアルサウンディング及びマーケットサウンディングを実施

4. マーケットサウンディングを受けた今後の進め方

1) 事業への参画意向

■MSには13社が参加。事業への参画意向のある事業者は多いことが確認できた。
⇒MSで収集した内容を公募指針に反映すれば、公募時も事業者の応募はある。公募指針での条件を厳しくすれば、応募できる事業者数は少なくなる。一方、事業者意見を網羅的に反映した場合は事業者数は多くなるが、提案内容がバラバラになり、選定作業が煩雑になることが想定される。

2) 事業の提案内容

■事業内容の提案は地元向け/観光客向け、投資規模（大規模/小規模）、収益性（収益性高/収益性低(にぎわい重視)）等の面で様々。
⇒名護市として、21世紀の森公園をどのようにしていくかの方針を打ち出す必要がある。例えば、名護市として「地元向けの賑わいを重視する」「公園の維持管理費を極力減らす」等の方針を決めると、公募で求める公募対象公園施設が絞れてくる。

【地元向け】

キャンプ場、BBQ場、イベント事業、飲食事業(カフェ、バー)、キッチンカー、商業(物販)、観覧車・遊園地、ビーチスポーツ、マリナクティビティ、アーバンスポーツ、アウトドアフィットネスジム

【観光客向け】

宿泊施設
セカンドハウス
リゾートウェディング事業

※現在検討中の21世紀の森公園の整備計画を踏まえて、公募指針を検討する。

出典：庁内WG資料(R5年3月)

P-PFI事業で整備する公募対象公園施設の方向性は、宿泊施設等の収益性のみを重視するのではなく、市民も観光客も日常的に楽しめる観光スポットを整備する方針とする。

・事業手法として、「P-PFI+管理許可」を採用しているため、今後20年間は今回選定された民間事業者が21世紀の森の対象エリアで事業を実施することが想定される。

3. 事業対象範囲の整備目的

- 過年度からの検討経緯を踏まえて、本事業の目的を以下のとおり示す。
- 21世紀の森公園は、夕日を望める人工ビーチを有し、名護市の中心市街地に立地するため、とてもポテンシャルが高い場所である。
- しかしながら、現在の利用状況を確認するとスポーツ利用や市民の憩いの場として、利用者が限定されている状況である。
- また、今後の高規格道路ネットワークの整備状況により、那覇方面から本部方面への人流が増えると想定されるため、立ち寄り観光の目的地となることが必要である。
- そのため、民間の活力を活用して、以下の目的を実現する。

1. 21世紀の森公園の魅力向上

- 魅力向上の方向性は、観光客が滞在する拠点(ホテル・別荘等)整備ではなく、「**市民が日常的に利用して楽しい**」「**観光客が訪れて貴重な体験ができる**」といった集客の核となるスポットを整備し、様々な人に訪れてもらい、賑わいを創出する。

2. 名護市の維持管理費の削減

- これまで直営や委託業務として維持管理を行ってきたが、P-PFI + 管理許可という事業手法を採用することで、**名護市の人材や財源の負担軽減**を図る。

4. 今後の名護市周辺の高規格道路ネットワークの状況

- 名護東道路が令和3年7月に全線開通し、今後、許田ICからの直結する連絡路や本部方面への延伸が計画されている。

【沖縄ブロック広域道路ネットワーク計画図(案)】



(高規格道路ネットワーク上は)
那覇方面からの観光客が、名護市街地をより通過してしまう道路ネットワークとなる。

立ち寄り観光の減少が想定されるため、より観光の目的地となる場所が必要である。

名護市における新たな観光の目的地としては、交通アクセスや現在のインフラ投資の状況を考えると、名護湾沿岸整備計画に位置付けている「21世紀の森公園周辺エリア」及び「名護漁港周辺エリア」が最も望ましいと考える。

将来の高規格道路ネットワークができた時点で、那覇方面から本部方面に行く人が増えると想定されるので、『名護市に面白い観光スポットがある』『帰りに寄ってみよう』となる必要がある。

出典：沖縄ブロック新広域道路交通計画(R3.3)